
夢の中

はりがねん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の中

【Zマーク】

Z0108Z

【作者名】

はりがねん

【あらすじ】

連載小説としていますが、思いつきのネタの集まりです。掘り下げる程でもないものや、なんとなく思いついたものを集めています。当然、なんの脈略もない内容です。一応物語形式ですが、それぞれ独立している上、夢の中なので何でもアリ。それでも良い方はどうぞ。

始まり

ゆっくりと目を開き、のつそりと身体を起こす。じばらぼーつと壁を見つめ、携帯電話に手を伸ばして時間を確認した。

12 / 3 Sat AM 8 : 47

しばらく眺め、まだ早いなと思い直してそのままベッドに横たわった。冬用の厚い布団へと潜り込み、そのまま目を瞑つて何も考えずに寝転がる。

何も考えずに暗闇の中にはいる事は幸せだった。

何も考えなくても良いという事が、とても好きだ。特に何かを考える事が苦手な私にとっては幸せな事である。

私はそのまま夢の中へとまどろんだ。

「また来たの？」

暗闇の中に洒落た机と椅子が白く浮かび上がる。椅子に腰かけたその人は、手に持ったティーカップを机の上に置く。面倒臭そうに立ち上がると頭を搔いた。

「いや、別に来たらいけないって訳じゃないけど……よっぽど起きるのが嫌なんだね」

名前の知らないその人はワイシャツにジーパンという、かなりラフな恰好だ。私の普段の恰好と良く似ている。洒落つ気が無い所が特に。

「それで、今度は何が希望なのかな」

私は漠然と想像を膨らませる。彼には私の考えている事が何故か全てお見通しなのだ。別にその事に嫌悪を覚える事はなく、どこか

でそれが当然のようにはじめていた。

私の想像を受け取った彼は苦笑を浮かべる。

「ほんと、そういうの好きなんだねえ」

「いけないかな。

もつとも、仮にいけないと言わわれても私にやめるつもりはないなかつた。

「知ってるよ。別に好きにすれば良いさ。ここには君の夢の中なんだからさ」

私の心中を覗ける人は誰もない。私が夢の中でどんな世界を漂おうと、それに誰かが干渉など出来る筈もない。

「そうだね」

彼はぐるりと人が一人入れそうな円を描く。出来あがつた円の向こう側には暗闇ではなく、別の景色が見えていた。

「さあ、準備は出来たよ。それでは 良い夢を」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0108z/>

夢の中

2011年11月30日19時47分発行